



雑草イネが県内各地で広がりつつあります

茨城県・茨城県雑草防除推進連絡協議会



もしかしたらそれは雑草イネかも？

- 昨年収穫した玄米の中に、以下のような赤色や褐色の粒が混じっていなかったでしょうか？

中央農業総合研究センター作成
「雑草イネまん延防止マニュアル」より



- 栽培している品種と特徴が異なるイネを水田で見かけなかったでしょうか？

- 出穂期や草丈が異なる。
- 籾の色が黒っぽい。
- 籾の先端や芒(のげ)が着色している。
- 出穂後しばらくすると、多くの籾がこぼれ落ちている穂がある(特に要注意)。



雑草イネとは？

- 栽培イネと同じ植物種ですが、古代米や栽培品種の赤米とは異なります。極めて籾がこぼれ落ちやすく、独自に交雑を繰り返して水田環境に適応した雑草です。
- 農産物検査では着色粒として扱われ、混入率が 0.1%を上回ると 2 等に格下げされます。また、異品種混入とみなされ、品種銘柄表示が出来なくなります。
- これまでは長野県で問題となってきましたが、本県でも平成 22 年以降、収穫物への混入や水田での発生が県南、県西を中心に各地で確認されています。



こうなる前に…… 早期発見と速やかな対応が大切です！

- 発見が遅れて放置すると、3~4 年で写真のような状態になってしまう事例もあります。
- 防除を怠り、農業機械を介して拡散すると、地域全体の水稻生産に大きな被害をもたらします。
- 混入した玄米は色彩選別機で取り除けますが、水田から雑草が減るわけではありません。雑草イネを発見したら、直ちに株ごと抜き取ってください。



中央農業総合研究センター作成 「雑草イネまん延防止マニュアル」より

- 発生圃場の機械作業は最後に行います。さらに、①収穫後の未耕起、②可能なら大豆等への転換、③遅植え、④有効な薬剤による体系防除(植調協会HPを参照)などの対策が必要です。

<問い合わせ先> 各農業改良普及センター(農林事務所経営・普及部門)・農業総合センター